

### 3 主要農産物

#### (1) 茶

お茶は本市の農産物の中で栽培面積、産出額20億3千万円(※)ともに1位であり本市を代表する農産物である。

お茶の栽培条件として、「温暖な気候」「低地より標高が高い山間部」が挙げられ富士の裾野の比較的山間部で栽培されており、主な栽培地区としては、岩松地区、大淵地区、須津地区がある。

本市では自園自製自販の農家が他地域に比べると多く、それぞれの工場が製品を競い合っている。

近年は、自園自製農家を中心に、乗用型茶園管理機の導入が進み、富士山の裾野のなだらかな傾斜を生かした効率的な生産が行われている。

今後は、良質茶としての産地銘柄化を図るため、生産性の向上に向けた改植、農地整備や利用集積を推進するとともに、生産技術の向上を図り、「富士のお茶」として産地PR等の施策を展開する。

(※)平成18年度 静岡県が生産農業所得統計より(生葉算出額+荒茶算出額)

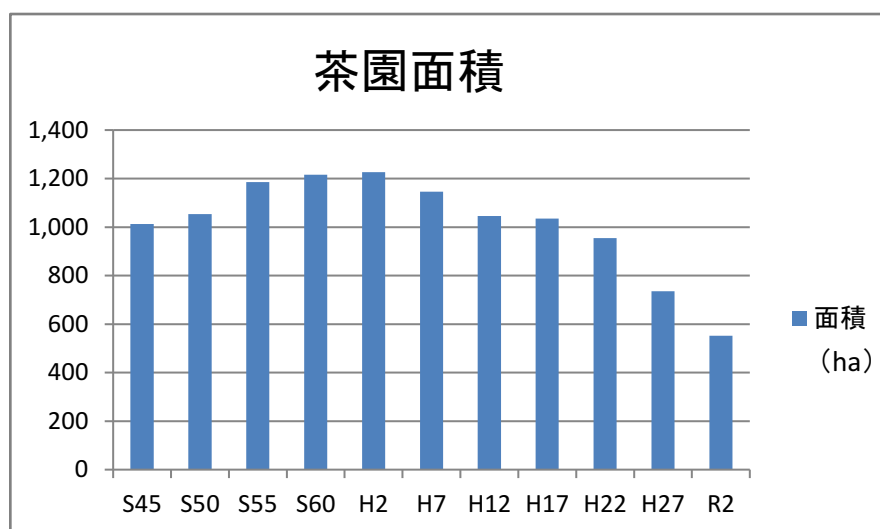
富士市の茶栽培面積

単位:ha

年次	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17
面積	1,054	1,186	1,216	1,226	1,146	1,046	1,035

年次	H18	H19	H20	H21	H22	H27	R2
面積	1,035	1,040	1,030	1,030	955	735	552

資料:平成18年度までは静岡県農林水産統計年報、平成19～21年度は静岡農林統計情報協会が過年次統計等を用いて市町別に配分した試算値、平成22年度以降は、農林業センサスより



## (2) 米

本市における米の平成18年農業産出額は7億4千万円(※1)で第2位の作物である。水田は、ほ場整備(※2)を実施した富士東部地域や市街化周辺の富士中西部地域のほか富士川北部地域の平坦地に広がる。

富士市東部地域を除いては、小規模ほ場で規模拡大が難しく、近年では、都市化・工業化による改廃が進み、水田面積は減少傾向にある。

(※1) 平成18年 静岡県が生産農業所得統計より

(※2) ほ場整備:農地の区画整理を中心に、農業用水路、農道など農業生産基盤の面的な改良を一体的に行う事業

### 3-2 水稲作付面積の推移

単位:ha

年次	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
面積	617	611	597	592	578	571	568	556	542

資料:農林水産省 作況調査より

## (3) 梨

本市の梨の平成18年農業産出額は1億9千万円(※)で、主に幸水、豊水が栽培されている。富士市の梨の特徴としては糖度が高く、多汁で甘くおいしいことが挙げられる。これは富士市の土質にあるといわれている。

また、庭先販売の形態が多く、市場に出回ることが少ないため、希少価値が高く、前述のような特徴があるため評価も高く、大変人気がある。

(※)平成18年 静岡県が生産農業所得統計より

### 3-3 梨栽培面積の推移

単位:ha

年次	H16	H17	H18	H25	H26	H27	H28	H29	H30
面積	40	40	40	39.2	39.2	38.7	37.7	37.2	36.6

資料:H18までは静岡県農林累年統計、H25以降は特産果樹生産動態等調査より

## (4) みかん

本市における温州みかんの平成18年農業産出額は3億円(※)であり、愛鷹山麓や岩本山及び富士川沿いに産地を形成しているが、栽培面積の減少が続いている。また、富士川地区は、従前みかん専作地域として産地形成されてきたが、全国的なみかんの生産過剰により、キウイフルーツ等への転換が促進した。

(※)平成18年 静岡県が生産農業所得統計より

### 3-4 みかん栽培面積の推移

単位:ha

年次	H17	H18	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
面積	94	93	48	48.2	48.3	49.2	43.9	42.3	44.1

資料:H18までは静岡県農林累年統計、H25以降は特産果樹生産動態等調査より

(5) キウイフルーツ

本市におけるキウイフルーツの平成18年農業産出額は6千万円(※)であり、気候が温暖な富士川地区で盛んに栽培されている。

栽培面積は減少傾向にあるが、一般的なヘイワードが多く栽培されているほか、現在は有望品種であるレインボーレッドの栽培面積拡大に取り組んでいる。

(※)平成18年 静岡県生産農業所得統計より

3-5 キウイフルーツ栽培面積の推移

単位:ha

年次	H17	H18	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
面積	17	17	9	9	9	9	9.1	8.6	9.3

資料:H18までは静岡県農林累年統計、H25以降は特産果樹生産動態等調査より

(6) その他農作物

愛鷹山麓の東部地域や富士山麓の作土層の浅いところでは、ホウレンソウが栽培され、西部地区では、水田の裏作としてキャベツ、ホウレンソウ等の露地野菜が栽培されている。

近年、農協の各支店で産直市を設けており、地場野菜の自給率向上が図られるとともに、鮮度等の評価が高まっている。

また、平坦部を中心にイチゴ・花きが栽培され、丘陵部では、しきみの栽培が盛んで、しきみは今後も需要が見込まれる作物である。

(7) 家畜飼育状況

3-6 家畜飼育状況

区分	乳用牛頭	肉用牛頭	豚頭	採卵鶏羽	ブロイラー羽
地区別					
総数	-	-	224 (4)	117,212 (5)	106,500 (1)
吉永	-	-	-	86,212 (4)	-
大淵	-	-	2 (2)	31,000 (1)	-
鷹岡	-	-	222 (2)	-	-
北部	-	-	-	-	-
松野	-	-	-	-	106,500 (1)

(注)( )内は飼育実農家数(休業中の農家は除く)

令和3年2月1日現在